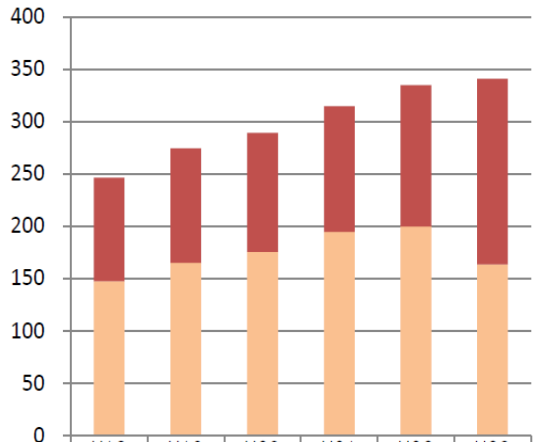
主要研究大学の主要財源について

○ 外部資金の受入額は年々上昇し、収入の約45%の水準に達している。
○ 外部資金の間接経費の比率は14%程度にとどまっている。また、直接経費には制約が多い。

外部資金受入額推移（RU11）

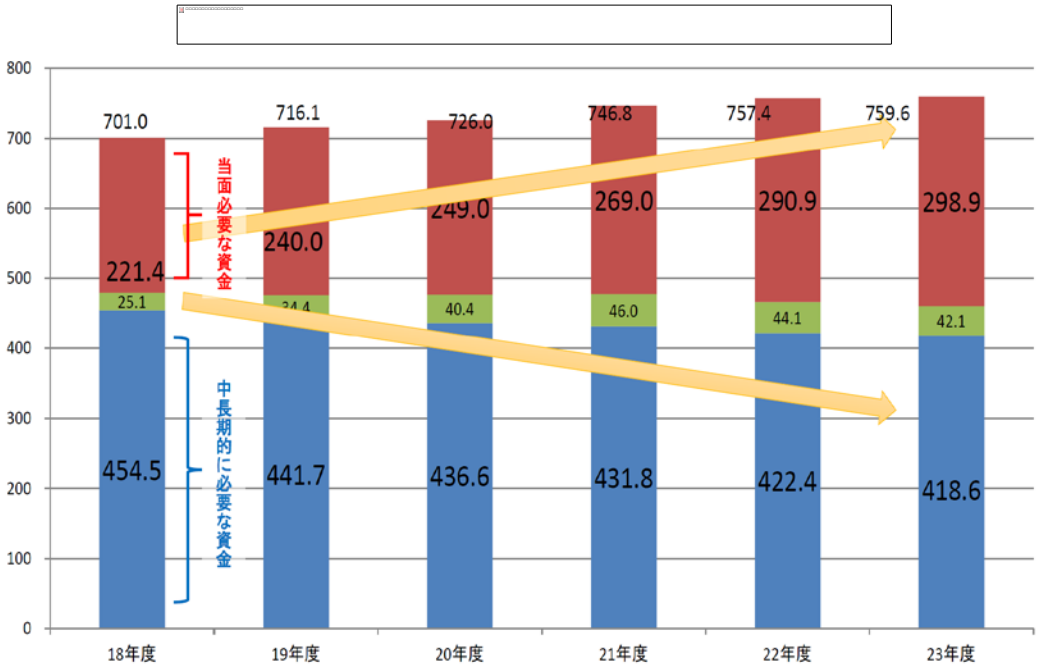
（単位：十億円）



	H18	H19	H20	H21	H22	H23
外部資金総額	246.5	274.4	289.4	315.0	335.0	341.0
その他外部資金	98.9	109.3	113.8	120.1	135.1	177.3
競争的資金	147.6	165.1	175.6	194.9	199.9	163.7

※早稲田大学・慶應義塾大学を除く

RU11　主要財源の推移



＊早稲田大学、慶應義塾大学を除く。震災復興のため23年度補正予算を除く。

研究費（直接経費）の一般的特徴

- ・偏　在…研究者育成や大学経営の改善といった体制全体の強化には活用できない
- ・短　期…若手研究者は5年程度で職を失い、次の職の保証がない
- ・多規制…多くの場合、海外からの優秀な研究リーダーの正規雇用は不可
- ・不安定…途中で資金が縮小・廃止、性格が変更される等、扱いが不安定

運営費交付金額と外部資金額の比較（RU11）
1　:0.54（H18）　⇒　1　:0.81（H23）

出典：RU11からの人材政策に対する提言　東京大学　理事・副学長　松本洋一郎（平成26年6月）
SciREX（政策のための科学）シンポジウム「イノベーション創出を支える博士人材の育成」を基に、文部科学省作成